

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	健康推進課長 村下 伯	電話番号	0852-22-5248
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	お産あんしんネットワーク事業		
目的	(1) 対象	周産期を支える医療機関等の関係者	
	(2) 意図	高度専門医療を効果的に提供できる周産期医療体制（連携体制）を構築する。	
事業概要	○周産期医療協議会：周産期に専門的医療を受けることができる体制を推進するため、協議会を開催する。 ○島根県周産期医療ネットワーク構築事業：総合・地域周産期母子医療センターの周産期医療機関運営費等の補助及び関係者への研修等を行うことによって、県内の周産期医療体制の充実を図る。 ○周産期医療体制圏域検討会：医療・行政機関の連携強化や医療機関間の機能分担を推進をするため、各圏域で検討会を開催し、今後取り組む事業や方向性について検討する。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 協議会開催回数	目標値		15.0	15.0	15.0	15.0	回
	式・定義	取組目標値						
	式・定義 県及び各保健所の協議会・検討会の開催回数	実績値	12.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
	式・定義	取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	5,920	43,209
うち一般財源 (千円)	1,352	1,879

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・母子保健・医療・福祉・教育関係者等の多機関との連携強化を目指した協議会が各保健所で一回以上開催された。
- ・島根県周産期医療ネットワーク会議、周産期医療体制圏域検討会を開催し症例検討を実施した。
- ・周産期医療ネットワークを12医療機関と連携し、患者紹介、情報交換に活用している。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・総合・地域周産期母子医療センター連絡会を年1回毎年実施し、具体的な症例をもとに各病院間の連携のあり方について検討できた。
- ・各圏域では地域の実情に応じて、症例検討や看護連絡会も開催し、圏域内の関係者の連携のあり方について検討できた。
- また、精神科との連携の必要性を感じ、現状、課題を把握する取組をした圏域もあった。
- ・支援が必要な妊産婦について妊産婦連絡票により、医療機関と市町村との間で継続した支援ができつつある。
- ・妊娠期からの切れ目のない相談・支援の手引きを作成した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・NICUが満床になる状況が生じ、新生児搬送受入先の調整が困難になることがある。
- ・GCU、NICUの空床情報などの情報共有が不十分だったため、搬送に時間を要した事例があった。
- ・養育支援を必要とする家庭への妊娠期、出産後の早期からの支援体制が不十分である。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・周産期医療機関間における連携が不十分
- ・空床情報等の情報共有を的確に行える仕組みが十分に整備されていない。
- ・妊娠期と出産後とは関わる機関が変わってくることから、情報が伝達されにくい。

③原因を解消するための「課題」

- ・医療機関間の連携を促進するため、医療機関の現状等を共有する場を設定する必要がある。
- ・空床情報等の情報を共有できるネットワーク環境を整備する必要がある。
- ・関係者が養育支援を必要とする家庭への妊娠期からの切れ目のない支援の必要性を認識し、支援のための連携体制を整備する。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・全体的には、県下の周産期関係病院が参集し、各医療機関の現状と課題を共有し、連携促進を図るための検討を進める。
- ・ネットワーク環境の整備に向けて、医療政策課と協議する。
- ・各圏域においても圏域の実情に応じて医療機関の機能分担と連携、助産師の活用についてさらに検討を進める。
- ・「妊娠期からの切れ目のない相談・支援の手引き」を活用し、関係者が養育支援を必要とする家庭の把握、適切な支援ができるよう研修会を行い、スキルアップを目指す。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）